

兵庫大学附属加古川幼稚園

記念すべき創立50周年を迎えて

1967年4月に創立された本園に、50年の月日が流れました。創立からこれまでの50年は、時代の変化に柔軟に対応しながら園児の健やかな成長を目指して、子どもたち一人ひとりに向き合った歩みに他なりません。そこには、人を愛し、人を尊ぶ「和敬」の精神が息づいており、この精神をすべての源とする幼児教育の姿勢は、これからも変わることはありません。

創立50周年を機に、園舎が新しくなりました。新しい園舎は、緑の木々や草花を揺らしながらやってくるそよ風を感じる場所であり、雲の間から射す陽光を全身で感じる場所でもあります。園児たちは、この新園舎で、風や光を感じ、ときには雨を楽しみ、先生たちの愛情を全身で受けて未来に向かって成長しています。長年、教育に携わってきたことで、幼い頃に自然と触れあう環境があり、豊かな愛情を持った大人と出会えることは、一人の人が、その人らしく、豊かに生きる力を養うと痛切に感じます。

また、激しく変化する社会環境に対し、自ら判断し新しい生き方を考えることができるような柔軟な対応力のある個性を持つ子どもたちを育ててまいりたいと思います。そのためにも主体的な遊びを通し、人間関係を学び、多様な経験の中で本物を目指して心豊かな子どもの育成を行います。本園は創立当時より保護者をはじめ地域の方々の温かい愛情に包まれた幼稚園です。子どもたちの成長を急ぐことなく心豊かに育成したいものです。

本園はまた、兵庫大学附属幼稚園として、創立時から今まで変わらず幼児教育を志す学生の教育の場としての役割も担ってきました。自然に恵まれた広大な園地で学生たちと触れあうことは楽しく、有意義なひとときとして、幼い心に刻まれます。このように創立から50年の歩みを再認識する今、本園の50年の歴史と実績が、未来への道しるべであることを実感します。次なる節目となる100周年を目指して、今後ともご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

兵庫大学附属加古川幼稚園
園長 大村 桂治郎

〈平成30年9月1日開催 創立50周年記念式典の様〉



大村園長



渡邊理事長



杉本神戸別院輪番



岡田加古川市長



園児の演奏



釜谷理事

さわやかな甲子園

前監事 今井 俊介

「人命に危険を及ぼす」暑さの中で、第100回全国高等学校野球選手権記念大会が甲子園球場で開催された。その二日目、沖学園(南九州代表)と北照(南北海道代表)戦で、九回打球を追った北照の左翼手が両足ふくらはぎのけいれんを起こし、転倒した。審判員らの手当てを受けるも立ち上がれなかった。この時、三塁側コーチと三塁側ベンチ(いずれも沖学園)にいた選手が水の入ったコップと冷却スプレーを持って現場に駆けつけた。負傷した選手に飲料で一息つかせ、冷却スプレーでふくらはぎを冷やした。観客からは大きな拍手が沸いた。負傷した選手は一度ベンチへ戻り、手当を受け、再び守備に戻った。観客席からは選手を迎える大きな拍手が巻き起こった。写真(左)は、その時のもので18番の背番号の選手が水を運んだ沖学園の選手、帽子を取って礼をしているのが北照の選手で、なんとも爽やかで心温まるものではないか!

たまたまテレビでこのシーンを観た人、当日のニュースで何度も放映されたので、拍手を送った人も多いのではないだろうか(私もその一人であります。)

最近スポーツと法律について学ぶべきことが多い。

○人の生命、健康を故意に阻害する行為は、絶対に許されない(某大学アメフト部事件)。



写真(左)



写真(右)

兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校

ソフトボール部、全国高校総体で9年ぶりV

平成30年8月3日～8月6日にかけて、平成30年度第70回全日本高等学校女子ソフトボール選手権大会が三重県熊野市で行われ、本校ソフトボール部がみごと決勝戦で東海学園(愛知)に2-1で勝ち、9年ぶり2度目の優勝を果たしました。準決勝では前回優勝の創志学園(岡山)を延長の末下し、決勝では、伝統の堅守と投手陣の踏ん張りもあり、総合力で競り勝ち、念願の優勝旗を手に入れました。

【優勝までの戦績】

- 7-0 島根県立三刀屋
- 3-0 済美
- 5-3 笠田
- 5-2 花巻東
- 3-2 創志学園
- 2-1 東海学園



平成30年度龍谷総合学園学校保護者会連合会 近畿ブロック連絡会開催

7月23日(月)、睦学園が当番校となり、本校及びホテルオークラ神戸にて総勢約180名参加のもと、標記連絡会が開催されました。本保護者会連合会は「龍谷総合学園」加盟校の保護者会間の情報交流や親睦を目的として組織されており、中でも本校保護者会が属する近畿ブロックは最多7校の保護者会で構成されています。

当日は、本校アリーナにおいて同保護者会連合会理事長挨拶、続いて本学園渡邊理事長挨拶をはさんで式典が厳かに行われ、最後には歓迎セレモニーとして須磨ノ浦高校の体操部及びカラーガード部によるアトラクションが花を添えました。

その後会場をホテルオークラ神戸に移し、本年度のテーマ「出遇い(であい)～話しあえる人はいますか?～」にしたがい、成徳学園、龍谷大学付属平安中学校・平安高等学校、京都女子学園、龍谷大学、相愛学園、聖徳学園、そして睦学園の順で研究発表等の連絡会(協議会)が活発に行われました。

続いて懇親会では、兵庫大学河野真学長による開会挨拶、KIS澤田陽一校長による乾杯ののち歓談となり、アトラクションでは本校卒業生6人の打楽器アンサンブルグループ「フライング・マレッツ」による演奏を楽しみました。その後、次年度当番校の岐阜聖徳学園高等学校育友会会長のご挨拶に続き、本校河野幸星校長の閉会挨拶にて盛会のうちに幕を閉じました。



○性別や不当な伝承などは否定する理由にならない(治療のために土俵に上る女性看護師の行為)。
○スポーツにおけるヒューマンティの必要性(テニスの国際試合において、相手が滑り込んで必死に追い返した球を、強くたたき込むことなく、緩く送り返したり、故意に自己のネットにぶつけて自己の失点とした例がある)。
今回は、人の生命、健康を守るためには、敵・味方の区別はないことを教えられた。水を運んだ選手は「同じスポーツマンとしてほっておけなかった」と言い、相手は「ありがとう」と礼を言ったという。この突然の出来事における二人の咄嗟の会話にすべてが集約されている。

敵・味方の区別があってはならないことは、国際法でも承認されている。
(この話には後日談がある。数日後行われた沖学園と大阪桐蔭戦において、9回沖学園の打者が中前安打で一塁に出塁したが、足にけいれんを起こし動けなくなった。これを見た一塁側桐蔭ベンチの選手2名がそれぞれ氷のうと経口補水液を持って選手のもとに駆けつけ、手当をした(写真右)。走者は代走を送られたが、沖学園にとっては先日と全く逆の経験をしたわけである。沖学園は、「先日、自分達が同じことをしただけに大変嬉しかった。高校野球をやっている本当によかった」と語り、桐蔭側は「日頃、先輩の行為を見ていて体得したものである」と語っている。)

人命の尊重にとって敵・味方の区別はないことを物語る貴重な体験である。

